

# 第9次森町総合計画について

第9次総合計画の策定にかかる諸条件等について以下に整理します。

計画づくりの背景等	<div>1. 計画策定の背景・目的</div> <div>○森町では、平成 18 年度を初年度とし平成 27 年度を目標年次とする「第 8 次森町総合計画」において、「ええら森町！」～みんながチカラの郷づくり 古きをいかして新しきをつくる～ を将来像に掲げ、その実現に向けてまちづくりを進めてきました。</div> <div>○我が国の社会経済状況は、少子高齢化や人口減少の急速な進行による人口構成の変化、自然災害をはじめとする様々なリスクに対する危機管理意識やエネルギー・環境問題に関する意識の高まりなど、大きく変化しています。また、「地方創生」や、参画と協働によるまちづくりの更なる推進が求められるなど、地方自治体を取りまく状況も変化してきました。</div> <div>○このような現状を踏まえ、また第 8 次総合計画の期間満了を迎えることから、今後の新たな町政の中長期的な指針となる「第 9 次総合計画」を策定します。</div> <div>＜計画策定の 6 つの視点＞ （策定方針）</div> <div>①町民と行政との協働作業での策定      ③まちづくりの基軸となる戦略的な計画      ⑤簡潔で読みやすい形態</div> <div>②全職員の参加を基本とした策定      ④地方創生の実現に向けた計画      ⑥各種計画との整合性</div>					<div>2. 計画の構成と期間</div> <div>○本計画は、「基本構想」及び「基本計画」により構成し、計画期間を平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間とします。</div> <div><div>基本構想</div><div>町の「将来像」を掲げ、まちづくりの柱となる「基本目標」、それらを達成するための基本理念等を示す。</div><div>基本計画</div><div>基本目標を達成するために必要な施策の基本的な方向とともに、計画の推進にあたって留意すべきことなどを提示する。</div></div>									
	時代潮流や町の現状等		<div>1. 時代潮流</div> <div>①少子高齢化・人口減少社会の進行</div> <div>②地方分権と行政改革の推進</div> <div>③価値観の多様化</div> <div>④環境問題の進行</div> <div>⑤安全・安心意識の高まり</div> <div>⑥地域経済を取りまく環境の変化</div> <div>⑦教育や子育てに対する関心の高まり</div> <div>⑧住民参画・協働意識の高まり</div> <div>⑨高度情報化の進展</div> <div>⑩社会資本の老朽化</div>		<div>2. 森町の特徴と現状</div> <div>【強み】</div> <div>○「遠州の小京都」といわれる緑豊かな景観、歴史・文化資源、多彩で高品質な農作物</div> <div>○新東名高速道路の森掛川 I C・遠州森町 S I C 設置による産業拠点形成および交流人口拡大の要素</div> <div>○お達者度ナンバー 1 （元気な高齢者が多い）</div> <div>等</div> <div>【弱み】</div> <div>○若年世代を中心とした人口減少、高齢化の一層の進行</div> <div>○まちの空洞化、産業力の低下</div> <div>○公共交通の低利便性</div> <div>等</div>		<div>3. 町民意向</div> <div>○回答者の 8 割近くが、概ね森町は「住みやすい」と評価しており、かつ「自分のまちとしての愛着」も高く、居住継続意向も高い割合となっている。一方転出意向の場合、交通や買い物などの生活利便性の悪さが要因になっている。</div> <div>○町の環境として評価されているのは、「山や川などの自然環境のよさ」、「犯罪・事故・災害の少なさ」、「人情や気風のよさ」があげられている。</div> <div>○現行施策の満足度で高いのは「文化活動」、「こころと身体の健康づくり」など。低いのは「計画的な土地利用」、「道路・交通ネットワークづくり」など</div> <div>○これからの森町が目指すべきまちづくりのキーワードは、「住みたいまち」、「若者」、「子ども・子育て」、「自然」など。</div> <div>○今後重視すべきまちづくりの分野としては、「福祉や医療の充実」、「活力ある産業の発展」、「自然環境の保全」となっている。</div> <div>○町財政の健全化に向けて重視すべきなのは「町有地や公共施設などの町有財産の有効活用」、「人件費の削減」などとなっている。</div>								
まちづくりの課題認識（基礎調査）		1 保健・医療・福祉の充実		2 教育の充実・文化の振興		3 生活環境の整備		4 安全安心なまちづくり		5 産業の振興		6 自然環境の保全		7 行財政運営と町民参画	

# 第9次森町総合計画（基本構想）の構成

総合計画の基本構想に示す将来像や基本目標の設定について以下に整理します。

＜まちづくりの課題認識＞

人口減少を食い止める  
まちの活力向上  
人にやさしいまち

森町の状況  
(基礎調査)

保健・医療・福祉  
の充実

教育の充実・  
文化の振興

生活環境の整備

安全安心な  
まちづくり

産業の振興

自然環境の保全

行財政運営と  
町民参画

＜まちづくりの考え方＞

【背景となる事象】

- ・東日本大震災
- ・新東名開通（内陸フロンティア）
- ・遠州の小京都、お達者度
- ・地方創生、総活躍社会
- ・ . . .

これからの森町のあるべき姿をイメージすると

人の輪  
外部との交流

対話  
信頼の構築

調和  
人と自然

住む人も訪れる人も「心とらぐ森」  
（次世代へつなぐまちづくり）

人口ビジョンに示す  
将来人口の確保  
(平成37年：約17,000人)

＜施策の基本方向：総合戦略目標との関係＞

基本の柱①保健・医療・福祉（ひとを育む）

みんなで助けあう健やかなまち

- ・いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる
- ・「お達者」で暮らせるまちをつくる
- ・子育て・子育てしやすいまちをつくる

基本の柱②教育・文化（ひとを育む）

先人に学びみんなで育むまち

- ・「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる
- ・歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる

基本の柱③活力・情報発信（魅力と交流をつくる）

交流が盛んで賑わうまち

- ・「森町らしさ」が活きるまちをつくる
- ・町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる
- ・地域の宝・資源を最大限に活かしたまちをつくる

基本の柱④産業振興（しごとをつくる）

活気あふれる産業のまち

- ・活力が持続できるまちをつくる
- ・地域の資源を活用した産業を育成・支援するまちをつくる

基本の柱⑤安心・安全（安心をつくる）

いつまでも暮らせるやすらぎのまち

- ・安全・快適に暮らせるまちをつくる
- ・災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる
- ・コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる

基本の柱⑥自然環境（安心をつくる）

豊かな自然があふれるまち

- ・緑豊かな自然あふれるまちをつくる
- ・自然環境と共存するまちをつくる

計画推進

- ・健全な行財政運営等

第9次森町総合計画・基本計画へ